

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果と今後の取組

笠岡市立笠岡小学校

1 実施期日 平成30年4月17日（火）

2 受検者 第6学年児童

3 学力調査（国語・算数・理科）の結果について（全国平均との比較）

（1）平均正答率について

- ◇国語A（知識）・・・下回っている
- ◇国語B（活用）・・・上回っている
- ◇算数A（知識）・・・ほぼ同じ
- ◇算数B（活用）・・・やや下回っている
- ◇理科・・・・・・・・・・やや下回っている

（2）成果と課題

○成 果

- ・国語Aでは、登場人物の心情について情景描写を基に捉えること、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことについては、正答率が高い。
- ・国語Bでは、計画的に話し合うために、司会の役割について捉えること、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること、目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることについては、正答率が高い。
- ・算数Aでは、1に当たる大きさを求める問題場面における数量関係や序数が小数の場合でも除法を用いること、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解については、正答率が高い。
- ・算数Bでは、棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断すること、示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を表現方法を適用して記述することについては、正答率が高い。
- ・理科では、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想すること、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述することについては、正答率が高い。

▲課 題

- ・国語Aでは、漢字を文の中で正しく使うことについては、正解率が低い。
- ・国語Bでは、目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことについては、正答率が低い。
- ・算数Aでは、除法で表すことができる二つの数量の関係や十進位取り記数法で

表された数の大小を理解すること，分度器を用いて 180° より大きい角の大きさを求めること，示された表現方法を基に，空間の中にあるものの位置を表現することについては，正答率が低い。

- ・算数Bでは，示された考え方を解釈し，ほかの数値の場合を表に整理し，条件に合うものを判断すること，規則性を解釈し，それを基に条件に合うものを判断することについては，正答率が低い。
- ・理科では，科学的な言葉や概念を理解すること，調べた結果について考察する際に，問題に対応した視点で分析することについては，正答率が低い。

4 学習状況調査の結果について（全国と比較して特徴的なこと）

○成 果

- ・自分にはよいところがあると思うかどうかについては，肯定率（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）が高い。
- ・先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思うかどうかについては，肯定率（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）が高い。
- ・いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思うかどうかについては，肯定率（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）が100%であり，高い。
- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自主学習において，教科書を使いながら学習しているかについては，肯定率（している・どちらかといえばしている）が高い。

▲課 題

- ・毎日，同じくらいの時間に寝ること・起きることについては，肯定率（している・どちらかといえばしている）が低い。
- ・自分で計画を立てて勉強しているかどうかについては，肯定率（している・どちらかといえばしている）が低い。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事への関心，地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることについては，肯定率（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）が低い。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることについては，肯定率（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）が低い。

5 今後の取組について

昨年度までの結果と今年度の結果をより一層分析し，本校独自の課題や学年の傾向などを明らかにし，指導法の改善に取り組んでいきたい。

《国語科》

- ・漢字を確実に習得し，文の中で正しく使用することができるよう，ミニテストやフラッシュ型教材を取り入れて繰り返し指導するとともに，書く活動において既習漢字の使用を促進する。

- ・系統的に書く力を育成するため、各学年の「書くこと」の領域において、単元目標を明確にし、言語活動に応じた文章の書き方の指導の工夫・改善を図る。

《算数科》

- ・前学年までの既習内容の定着を図るため、授業において、適宜、学び直しをしたり、既習内容の復習を家庭学習に位置づけて計画的に取り組ませたりする。
- ・測定機器の使い方の技能と量感の育成に向け、具体的操作を伴う算数的活動を充実させたり、ICT機器を効果的に活用したりしながら、指導の徹底を図る。
- ・数学的な考え方を育成するため、論理的な思考やその表現方法を大切に授業を行う。

《理科》

- ・理科の科学的な言葉やその概念の理解を確実にするため、ミニテストやフラッシュ型教材を取り入れて繰り返し指導するとともに、書く活動において既習用語の使用を促進する。
- ・科学的な思考・表現の力を育成するため、調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点を明確にしたり、表現方法を示したりするなど、指導の充実を図る。

《学習全般》

- ・目的や条件に応じて考えて書く力を向上させるため、各教科の特質に応じた見方・考え方や学習用語を使って、自分の考えを書く場面や振り返りの場面の時間を確保するとともに、モデルを提示するなどして、目的や条件に応じた書き方の指導を充実させる。
- ・ペア学習・グループ学習・学級全体での話し合いを効果的に授業に取り入れ、対話に必要な技能を身に付けさせ、主体的に学習に参加する態度を育てる。
- ・家庭学習やメディア等の利用時間について振り返りカードにより把握し、適切な声かけを行うとともに、保護者の方にもご協力をいただく。

6 その他

- ・学習規律・生活規律の確立と学力向上に相関関係があることが、調査結果から明らかになっていることを踏まえ、『岡山型学習指導のスタンダード』をもとに、「返事」「次の学習の準備」「時間を守る」「あいさつ」など重点項目を絞って、学習・生活規律の徹底を図る。また、学びの基盤としての望ましい人間関係を構築し、学習集団づくりに努めるなど、学校全体で取組を推進していく。
- ・児童と保護者の方に地域の行事への参加を呼びかけ、児童に対しては、人と関わる大切さやよさ、必要性を伝える。さらに、参加した児童の感想を全体に広げ、他の児童にも関心をもたせる。また、新聞を読むことの意義を知らせ、学習と生活・社会のつながりを感じる機会を増やす。